

01 外国地名表記上の注意

1 外国地名の表記は、原則として現地における呼称により片仮名書きとする。ただし、慣用の固定しているものは、それに従う。

例 ベネチア（イタリアの都

市、英語名ベニス）

例 ブカレスト（慣用、現地

の呼称はブクレシュチ）

2 「ホ」「ヅ」「ヰ」「ヱ」「ヲ」 「ヴ」の文字は使わない。なお、V音の表記には「ヴ」を使わず、B音またはW音をもつて代用する。

例 バチカン モスクワ

3 「イエ」の表記は用いない。「イ

エ」は「イエ」あたば「エ」と書く。

例 イエメン ×イエメン

ローストン ×イエ

エルサレム ×イエルサ

レム ×イエルサ

4 「ト」「ド」の音は「ト」「ド」と書く。

例 トリニティ ×トウビリシ

ドニエプル川 ×ドゥニ

エブル川 ×エブル川

5 「トウ」「ドウ」の音は「トウ」「ドウ」と書く。ただし、慣用が固定したものには「ト、ツ」「ド、ズ」と書く。

例 トウルク ×ツルク

トゥールーズ ×ツール

ドゥシャンベ ×ドゥシヤ

例外 マゼラン海峡 ×マジエ

ンベ  
ワガドウグ ×ワガドグ

例外 カトマンズ

6 「クア」「クイ」「クエ」「クオ」は「クア」「クイ」「クエ」「クオ」と書く。また、「グア」「グイ」「グエ」「グオ」は「グア」「グイ」「グエ」「グオ」と書く。

例 クアンガイ ×クアンガ

イ  
ニカラグア ×ニカラグ

ア  
アルジェリア ×アルゼ

リア  
マゼラン海峡 ×マジエ

## 外国地名・人名

「一」は、ぱつありしたものの以外

は出来るだけ省略する。

は、次の原則による。

例 アイゼナハ フィンラン

a 英語

① 語末の (i)a は「ア」も書く。

あた語末の (y)a は、その前が子音のときは「ア」も書く。

例 オーストワコア ×オー

ストラリヤ

カリフォルニア ×カリ

例 シエラネバダ山脈 ダル

ストラリヤ

例 エスサラーム

カリフォルニア ×カリ

例 ローマ ×ロウマ

カリフォルニア ×カリ

例 ガーナ ×ガアナ

カリフォルニア ×カリ

例 バークリー ×バークリー

カリフォルニア ×カリ

例 マッキンリー山 (トナリ山の別名) ×マッキン

カリフォルニア ×カリ

例 マルセイゴ ×マルセイゴ

カリフォルニア ×カリ

例 カンヌ ×カンヌ

カリフォルニア ×カリ

例 ストラスブール ×ストラスブルグ

カリフォルニア ×カリ

例 シャンペーニュ ×シャンペーニュ

カリフォルニア ×カリ

例 ジャカルタ ×ジャカルタ

カリフォルニア ×カリ

例 ジュネーブ ×ジュネーブ

カリフォルニア ×カリ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

カリフォルニア ×カリ

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

カリフォルニア ×カリ

例 アウクスブルク ×アウクスブルク

カリフォルニア ×カリ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

カリフォルニア ×カリ

例 フランス語 ×フランス語

カリフォルニア ×カリ

例 ベルギー ×ベルギー

カリフォルニア ×カリ

例 ベルギー ×ベルギー

カリフォルニア ×カリ

例 ベルギー ×ベルギー

カリフォルニア ×カリ

b ドイツ語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

c フランス語

① oi は「オワ」と書く。

例 ポーランド ×ボローランド

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

d イタリア語

① gna は「ニヤ」と書く。

例 ボローニヤ ×ボローニヤ

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

e ドイツ語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

f フィンランド語

① oi は「オワ」と書く。

例 フィンランド ×フィンランド

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

g ローマン語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

h フィンランド語

① oi は「オワ」と書く。

例 フィンランド ×フィンランド

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

i フィンランド語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

j フィンランド語

① oi は「オワ」と書く。

例 フィンランド ×フィンランド

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

k フィンランド語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

l フィンランド語

① oi は「オワ」と書く。

例 フィンランド ×フィンランド

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

m フィンランド語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

n フィンランド語

① oi は「オワ」と書く。

例 フィンランド ×フィンランド

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

o フィンランド語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

p フィンランド語

① oi は「オワ」と書く。

例 フィンランド ×フィンランド

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

q フィンランド語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

r フィンランド語

① oi は「オワ」と書く。

例 フィンランド ×フィンランド

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

s フィンランド語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

t フィンランド語

① oi は「オワ」と書く。

例 フィンランド ×フィンランド

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

u フィンランド語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

v フィンランド語

① oi は「オワ」と書く。

例 フィンランド ×フィンランド

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

w フィンランド語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

x フィンランド語

① oi は「オワ」と書く。

例 フィンランド ×フィンランド

② 母音に挟まれた s の多くは獨音で書く。

例 ベズジヌ山 ×ベズジヌ

y フィンランド語

① 語頭の St, Sp の S は「エ」も書く。

例 ハウス

② 語末の nach, bach は「ナハ」も書く。

例 アイゼナハ ×アイゼナハ

③ 語末の berg, burg の g は「グ」も書く。

例 ハイデルベルク ×ハイデルベルク

例 クスブルグ ×クスブルグ

例 ライプチヒ ×ライプチヒ

ルード

ツヒ

ル書く。

z フィンランド語

① oi は「オワ」と書く。

外国地名・人名



- ルカ島 マジヨルカ島 ×マリ

② j は「ハ」行音で書く。

③ jua は「フア」も書く。

例 サンフアン ×サンフニア  
 ノ ×サンファン

④ h は無音として扱う。

例外 ハバナ ×アバナ  
 アルハンブラ ×アラカン  
 ブラ

- ⑥ *gua* は「グア」と書く。  
例 ウルグアイ ×ウルグア  
イ

① 「フ」も書く。  
例 ハバロフスク ×ハバロ  
ブスク

② ▶ は原則として「ベ」行音で書  
くが、語頭の ▶ に子音が続くと  
あは「ウ」と書く。  
例外 モスクワ ×モスクバ  
うに扱って書く。  
③ 軟音符号「、」は「イ」のよ

<p>例外 カザン ×カザニ</p>
<p>9 その他</p>
<p>① アフリカの地名で語頭に来る「ン」の音は、原則として「ン」と書く。</p>
<p>例 ナンジャメナ ×ヌジャメ</p>
<p>ンゴロンゴロ ×ヌゴロ ンゴロ</p>
<p>〈注〉以前は語頭の「ン」は「ヌ」と書くことを原則としていた。</p>
<p>15 州・市・山・川・島・湾などは、必要に応じて日本語を付ける。その他の部分については、慣用の固定しているものを除</p>

- い。 ひかるだけ日本語に訳さない。  
例 イリノイ州 メキシコ市  
テムズ川  
〈注〉慣用の固定したものの例  
地中海、北海、黒海、紅海、太平洋、大西洋、北極海、南極海など。

## 外国人名の書き方

1 外国人名の表記は、原則として本人または現地の呼び方による。ただし、歴史的人物や、わが国で表記の慣用が固定しているものにはそれに従う。

例 ネール (Nehru)  
ウオロシロフ (Voloshilov)  
ビノグラード (Vinogradov)  
(1) 表記の基準は、「外国地名の書め方」に記載回りであるが、主なものは次のとおり。  
(1) V音の表記には「ヰ」を使わず、B音またはW音で代用する。

例 ボルテール (Voltaire)  
スラブ系の人名の va は「ワ」、vo は「ヲ」あたは

(7) 英語の語尾の -ray, -rey は、原形の「レー」も書く。

例 グレー (Gray)  
(8) 英語の語頭の son は「ソ」も書か「ソン」もばつない。

例 ハジーハ (Edison)  
リチャードソン (Richardson)  
(9) 英語の whea, whi が「ホイ」と書く。

例 ホイートストン (Whitstone)  
(10) スラブ系の語頭の ky, ki は「コ」、「カイ」、「カ」、「キ」も書く。

例 フィーレー (Fleer)  
ホーリー (Holy)  
ホーリー (Whitney)  
(11) スラブ系の語頭の ky, ki は「コ」、「カイ」、「カ」、「キ」も書く。

例 フィーロフスキー (Sokolovsky = ロシア人)  
ザワドツキ (Zawadzki = ポーランド人)  
(12) スラブ、ケルト系の語頭の d, g (ただ)、ig, ing, ung の場合を除く) は語頭の「お」に発音するので「ド」、「グ」も書く。

例 フロイド (Freud)  
エーベル (Everborg)

(13) ゲルマン系の語頭の w- は「ヴ」、「カイ」、「カ」、「カ」、「キ」も書く。

例 アーデナウラー (Adenauer)  
(14) ギリシャ語、ラテン語の長音は、慣用のあるものを除き、長音で書かない。

例 アリストテレス (Aristoteles) (アリストテレス)

(15) つある音 (っ)、長音 (ー)、ばねの音 (ハ) は、はめたものとの外はなぬべく省略する。

例 リチャード (Richard)  
ヘンリイ (Henry) = ヘンリイ

「ヰ」、vi も「ヰ」も書く。ただし語尾の v は「ト」も表す。

例 フィルフ (Wilson)  
ウェーブ (Webb)

「ヴィ」、「ク」、「ク」の音は、たぬぐい「ヰ」、「グイ」、「グ」、「ト」も書く。

例 ヴィノグラード (Vinogradov)  
ティト (Tito)  
チト (Titus)

（4）原音におむる「グア」、「グイ」、「ク」、「ク」の音は、たぬぐい「ヰ」、「グイ」、「グ」、「ト」も書く。

例 スターフォー (Stanley)  
ダーバリ (Duvalier)

ただし、慣用の強いものは「ヂ、ジ、チ、シ」なども書く。

例 ターリー (Tally)  
ホールズベリー (Salisbury)

（5）英語の語尾の ley は「リ」も書く。

例 ケネディ (Kennedy)  
デュボリ (Dubois)

（6）英語の語尾の ry は、たぬぐいだけ「リ」も、慣用をつけたのは「リー」も書く。

例 チンダム (Tindemans)  
ヒンダム (Tindemans)

（3）wi, we, wo (wa) は「ウイ

・「ヒ・「ホ」も書く。

例 ウィルフ (Wilson)  
ウェーブ (Webb)

「ヴィ」、「ク」、「ク」の音は、たぬぐい「ヰ」、「グイ」、「グ」、「ト」も書く。

例 ウィルフ (Wilson)  
ウェーブ (Webb)

（4）原音におむる「グア」、「グイ」、「ク」、「ク」の音は、たぬぐい「ヰ」、「グイ」、「グ」、「ト」も書く。

例 ヴィノグラード (Vinogradov)  
ティト (Tito)  
チト (Titus)

（5）英語の語尾の ley は「リ」も書く。

例 ケネディ (Kennedy)  
デュボリ (Dubois)

（6）英語の語尾の ry は、たぬぐいだけ「リ」も、慣用をつけたのは「リー」も書く。

例 チンダム (Tindemans)  
ヒンダム (Tindemans)

